

今週の 視点 論点

国 内農業の成長産業化の一環として、農産物の海外輸出が注目されている。人口減少により国内マーケットの縮小が見込まれる中、成長著しい新興国を含む海外マーケットの購買力を取り組むことが狙いである。

日本各地から輸出される日本産農産物は、海外の消費者から高い評価を得ている。筆者がシンガポール、タイ、ベトナム、中国などで現地の消費者にヒアリングした際には、日本産の農産物・食品に対して「味が良い」「安心安全」といった意見が多く寄せられた。

先進国に加え、所得が向上している新興国においても、付加価値の高い農産物に対するニーズが顕在化し

ており、日本の農業にとって大きなビジネスチャンスとなっている。特に新興国は自国産農産物の品質、安全性のレベルが低く、日本産の価値が際立つ。例えば、中国、シンガポール、タイの高級デザートや日系スーパーマーケットでは、日本産の「世界一」や「フジ」といった品種のリンゴが1玉1千円〜2千円という高値で販売されている。

政府は2020年に農林水産物の輸出額を1兆円にするという政策目標（現在、1年前倒し）を掲げ、さまざまな輸出促進策を打ち出してきた。その結果、12年の4497億円から16年には7502億円と急激に増えている。

一方で、農林水産物の輸出額には加工食品も含まれ、コメ・野菜・果物といった生鮮食品に限ると輸出額は1千億円に満たないことに注意が必要だ。つまり農業者が輸出で直接的に稼げる状況にはまだ遠いのである。

また、輸出ビジネスの収益性の低さも重要な課題である。鮮度が重視される農産物の輸出の場合には、しばしば空輸が行われる。だが、航空便の輸送単価が高く、現地での小売価格を跳ね上げる要因となっている。

グローバル市場で稼ぐ「農産物輸出」



三輪 泰史

日本総合研究所 創発戦略センター
シニアスペシャリスト

みわ・やすふみ

1979年生まれ、広島県福山市出身。東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻修了。2004年に日本総合研究所入社。16年4月から現職。農林水産省、内閣府などの有識者委員を多数歴任。専門は農業再生による地域活性化、先進農業技術の導入支援、農業ビジネスの海外展開支援など。著書に「IoTが拓く次世代農業—アグリカルチャー4.0の時代—」（日刊工業新聞社、共著）など。

たとえば1玉1千円の日本産リンゴでも、輸送費や関税などのコストの高さゆえ、青森のリンゴ農家の手取りは国内向けと同程度と言われている。

活況を呈する農産物輸出を単なる短期的なブームに終わらせることなく、日本農業のV字回復の起爆剤にするためには、次の四つのポイントが重要となる。

①現地消費者のニーズに合わせた商品戦略

日本から輸出される農産物の多くは、日本国内で流通している商品と同じである。そのため、必ずしも現地消費者の好みと合致しているとは言いがたい。一方で、現地ニーズに即した輸出向け商品の栽培でチャンスをつかんだ事例がある。中国向けのリンゴ輸出では、日本国内ではあまり知られていないが、大きくて赤く贈答用に適した世界一という品種が

主力に据えられ、好評を博している。

②農業ICTの有効活用

農産物輸出においては、安全性やトレーサビリティの確保が重要で、GAPやHACCPが求められることも多い。そのため、近年普及が進む農業ICTを活用し、作業履歴や資材管理履歴をスマートフォンやタブレットPCを使って手間をかけずにデジタルデータとして残すことが得策である。

③先進技術を駆使した鮮度保持

輸出における大きな課題の一つが輸送中の鮮度低下である。しかし近年、さまざまな鮮度保持技術の実用化が進んでいる。野菜や果物では、エチレン吸着剤を設置した冷蔵輸送コンテナ、袋内部のガス組成や湿度をコントロールできる高度な包装材料などが効果を発揮している。また水産物では、細胞が破壊されにくいC

AS冷凍を行った水産物が、生の水産物に近い品質を保っている点が高く評価されている。

④SNSによるダイレクトマーケティング

SNSの普及により、非常に低いコストで、国境を越えた広告宣伝活動ができるようになった。安心安全への意識が高まっている新興国の消費者に対して、圃場での作業の写真や動画を見せる等の地道なアピールにより、海外でのファン獲得も可能となっている。

かつての農林水産物輸出は需給調整、つまり余剰品の海外への販売という側面が拭えなかったが、現在では、日本産の商品を好む購買力の高い海外消費者に対して、ニーズに即した付加価値の高い商品を輸出するという将来性豊かなビジネスに変化を遂げつつあると言える。

本欄は、多胡秀人氏（地域の魅力研究所代表理事）、渡邊准氏（地域経済活性化支援機構常務取締役）、井上久男氏（ジャーナリスト）、橋本卓典氏（共同通信記者）、小林美希氏（ジャーナリスト）、三輪泰史氏（日本総合研究所創発戦略センターシニアスペシャリスト）が交代で執筆します。



「心もからだもスッキリ！快適睡眠術」

睡眠環境プランナー 三橋 美穂氏

講師略歴 愛知県岡崎市出身。寝具メーカーの研究開発部長を経て、2003年独立。講演・執筆活動や個人相談のほか、快眠グッズのプロデュース、ホテルの客室コーディネートも手掛ける。世界的ベストセラー「おやすみロジャー 魔法のくつすり絵本」の日本語版を監修したほか、TV・雑誌に多く登場する。

■島根政経懇話会 第295回定例会

日時 7月13日（木） 正午〜午後2時
会場 ホテル一畑（松江市千鳥町）

■米子境港政経クラブ 第254回定例会

日時 7月14日（金） 正午〜午後2時
会場 米子全日空ホテル（米子市久米町）

入会などの問い合わせは山陰中央新報政経懇話会事務局（☎0852・32・3477）、またはHPをご覧ください。